



シリーズ

はたらく若者

第5回

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではない。「はたらく」から若者の今を見つめます。

井上 由季菜さん(24歳)
看護師



いまのお仕事について教えてください。

転職して、老人ホームで看護師をしています。吸引や薬の管理、往診にいたり、受診の相談や調整等も行います。例えば、受診のために介護つきタフシーの手配が必要なのもあり、家族に連絡して説明することもあります。

どっついで看護師になろうと思ったんですか？

正直に言うと看護師に憧れてなりたいと思っていません。どちらかと言うと逆ですね。高校生の時、祖母が病院で亡くなったんですけど、そのときの印象が悪かったです。その当時は「心のケア

をしてほしかった」と思っていて、医療従事者を見たくないと思うほどでしたが、こんな思いをする人をひとりでも減らしたいと思って看護師を志しました。
看護師になってみて、「スタンダードな声掛けはない」ということを実感しました。出来ること出来ないことがあって、その時出来る限りのことをしてくれたのだとわかりました。

看護師になって良かったですか？

いまは後悔していませんね。自分の子にはさせたくない(笑)。看護師っていろいろな職場があります。臨床にいる看護師っていろいろな意味で本当に大変。もともと私は、感受性が強くて、観察するし、人のひとつひとつの言動を考えてしまう。なので仕事中はずっと頭を動かしていますね。この考える癖は昔からで、それが悪いとも思わない。わからなかったら調べるし、聞く。命を扱う仕事なので、知らない事を知らないままではおけない。

そっついで意味でこの仕事は向いてるのかなと思いましたが、やりた

くはないです。本当は、働きたくない(笑)。好きなものを食べて、好きな時間に起きて、好きなときに出勤して……。アニメを見て、本を読んで、絵も描いて、旅行やライブ、美術館や神社にも行きたい。友達はたまにでいいかな(笑)。でも働いてみて、新しい夢ができて転職を考えるようになりました。転職を考えたきっかけは、リハビリ病棟にいたときに若い患者さんの担当になったことです。障がいも少し残っている中で、フルタイムの仕事に復職することがその方の目標でした。どっついたら働けるか、どっついで配慮が必要か、職場の人や本人を含めて話し合いました。本人にも状況を分かってもらおう支援をする中で、理想と現実の差をまざまざと感じました。他方で、退院するとき能力が思うように戻らず施設に行かれた方もいました。

そっついで病気になるってからは遅い、病気になることを防ぐ予防的医療が必要だと思えました。そのために保健師か養護教諭になりたいと思うようになったんです。私自身、保健室で過ごすことが

多くて、学校の凝り固まった価値観が苦手でした。一度働いたからこそ、世界はこれだけじゃないんだってことを伝えたいです。いろいろ経験していることが、転職したときに生きるんじゃないかな。そのためにも、いまは学校に行くお金を稼いでいます。まだまだ価値観が凝り固まっていると思うので来年は留学もしてみたいですね。

転職を決意してから大変じゃなかったですか？

いろいろ言われましたね。職場との話し合いは2カ月かかりました。転職って本当にエネルギーがいるんです。それまで仕事がしんどくても、「自分が勉強不足だから」と思っていました。やり方を否定されて、悔しかったこともあります。辞職を話し合う中で「自分が必要としているんだ」とって揺らいだこともありました。でもやっぱり気づいているんですよね。ここにいるのも自分のプラスにはならないって。

一年で辞めるってことは、この先の業界で働かないとも言われ

て、やっぱり不安もありました。でも路頭に迷ったとしても、それも良い経験になると思って決意しました。夢ができて転職した先のイメージができたから、ここまで考えたのかもしれないです。

いまは自分が思うほど悲観する必要はないと思うようになりました。

転職を支えた存在はありましたか？

社会人一年目で初めての一人暮らし、職場にも自分と同じ年が3人くらいしかいない状況でした。「ラップ&ロール」というお店に通うようになったのはそんなときです。毎週通っては、常連の人たちに慰めてもらっていました。受け入れてもらって場所、そんな自分でも良いと言ってもらえる場所でした。

あなたにとって「はたらく」とは？

自由に生きるために手段としてお金を貯めるため。べつに生きがいとかではないです。働く以外の時間が充実してないと。仕事だけが人生じゃないし、もっと自由でいいと思っています。